# 介護用語の日中比較
## —両国の介護交流を見すえて—

遠藤　織枝

### 1．研究の目的

日本はアジアの国々の中で、高齢化が最も進んでいる。並行して介護も大きな社会問題となっている。介護に対する理念や介護技術も進歩を重ね、アジア諸国の先端を行くようになっている。日本の介護人材の不足を補う形で、近隣の国々からの人材も求められるし、また、やがては日本と同じ高齢社会に突入する諸国への、介護技術や知識の移転も具体化するであろう。

その一端として、中国の介護事情をみると、学問分野として、介護と看護の分離はなされていないが、高齢化社会に入り、その担い手となる子の世代が一人っ子政策の最初の世代に相当するという大きな問題を抱えている。

介護の人材として、日本で働く中国人も増えることが予想される一方で、中国（台湾も含む）で指導的立場につける介護人材が求められている。そうした人々の教育と養成にとって、日本の介護用語の理解は不可欠である。その際、同じ漢字を使うため、非漢字圏の人々に比べてはるかに理解が楽だと思われている。しかし、一方では、同じ漢字を使いながら、両国で歴史的に異なる語彙を使ってきている背景もあるし、介護の理念や概念の新しい用語が導入される際の両国でのずれも生まれてきている。

日中の介護分野の交流が進むと同時に、用語についての誤解や混乱も招きかねない。そうした近い将来での無用な混乱を防ぐために予め準備しておきたいというのが本稿の趣旨である。

### 2．調査の方法

遠藤（2013）（2014）では、介護の用語の平易化のための問題提起を行っている。介護教育の面から介護用語を考えるために介護福祉士養成テキスト[(1)]から用語約1300語を収集しているが、その用語を、①病気・症状名、②体位

名、③介護用語名、④部位名、⑤外来語、⑥薬品・分泌物名に分けて整理している。ここで、⑤の外来語とは、「アドボカシー」のように他のどの項目にも入らない、介護のシステムや理念に関する語などを集めたものである。

この約1300語に、日本の大学で社会福祉学で学位を取得した中国語母語話者に訳をつけてもらった。その訳を、日本語と中国語が理解できる専門家として、中国人日本語教師にチェックをしてもらい、さらに、中国で使われている用語辞典『汉日医学大辞典』(以下『汉日』と略記)、『中华护理学辞典』(以下『中华』と略記)と対照した。こうして得た訳語と日本語とを比較しながら、その問題点を整理する。以下本稿では日本の介護用語をＪ、中国の介護用語をＣと略記して進める。

## 3. 日中同形の用語

ここでは、大河内(1997:412)の同形語の定義、「いずれがいずれを借用したかを問わず，双方同じ漢字(簡体字は問わない)で表記されるもの」に従い、日中で同形の介護用語について考察する。

まず、日中同形の語の例を示す(表の左側が日本語、右側が中国語。以下同様)。

| | |
|---|---|
| 網膜剥離 | 网膜剥离 |
| 股関節 | 股关节 |
| 大動脈 | 大动脉 |
| 大腸がん | 大肠癌 |

同形の語は今回のリスト全体では約52%、病気・症状名、体位名・部位名では約60%を占めている。このことは、沈(2010:37-38)が「今日、中国の術語は、医学用語をはじめ、物理学、地質学、鉱物学、その他の分野で日本製の術語が中心を占めており」と述べていることを実証している。つまり、病気名や部位名などの多くが日本から中国に伝わった結果、同形語が多くなっているということと考えられる。

表の、Ｊの「網膜剥離」「関節」「動脈」「大腸」の文字がＣでは、「网膜剥离」「关节」「动脉」「大肠」と「膜」「大」以外で簡体字が使われている。また、Ｊでは「がん」と平仮名表記する語であるが、Ｃでは本来の漢字「癌」

を使っている。こうした文字種の違う語は大河内(1997)の定義にはないが、全く同じ内容の語であることから同形語とする。

同形語は日中双方の学習者にとって理解しやすいものであるが、少数ではあるが以下のように同形で意味が違う例もあり、誤解しないように注意が必要である。

### 3．1　同形で意味が違うもの

〔顔色：颜色〕

| | |
|---|---|
| 顔色 | 脸色 |
| 色 | 颜色 |

Ｊの「顔色」は、Ｃでは「脸色」に相当する。また、Ｊの「色」に相当するＣは「颜色」である。よって、中国人学習者が「颜色」の語を見た場合、赤や青などの「色」と誤解するおそれがある。

### 3．2　同形で表す内容が違うもの

Ｊの「端座位」は、ベッドに寝ている体が不自由な高齢者などが起きて車いすに移るときによく使われる語で、車いすに移りやすいように、ベッドの端に座ることである（図１）。Ｃにも「端坐位」の語がある。喘息などで呼吸が困難な場合の座り方と説明されている(図２)。

図１　端座位『生活支援技術Ｉ』p. 125

図２　端坐位『中华护理学辞典』p. 31

同じ語が、日中で別の姿勢について表現している例である。Jは「端」に座るの意味からの造語であるが、Cは「端座」（＝きちんと、行儀正しくすわること。『三省堂国語辞典』）からできた造語で、姿勢が違うのである。現場で指示された場合など、相互に誤解が生じるおそれあるので、予め指摘して注意を喚起する必要がある。

### 3．3　同形語と異形語が併存する場合

一部では同形語であるが、もう一部では別の語となっている語群がある。以下の場合である。

| | |
|---|---|
| 水虫 | 脚气 |
| 脚気 | 脚气 |

Jの「水虫」のことをCでは「脚气」というのだが、「脚気」はJにも別の病気名として存在する。なお、『日中辞典」』には「脚气：①＜医＞脚気。②＜口＞水虫」と記述されている。つまり、Cの「脚气」は医学用語ではJの「脚気」に相当し、俗語的にはJの「水虫」を意味することになっている。水虫の専門用語が「足白癬」であり、その「足」から「脚気」の「脚」と結びついたとも類推されるが、どうだろうか。

同じように、文章語と口頭語と２種類ある語群があり、同形語と異形語が併存する場合がある。Jの「歯」は、Cの「牙・齿」に相当し、Jの「乳歯」にはCの「乳牙・乳齿」が、Jの「義歯」には「义牙・义齿」のそれぞれ２語が対応する。

〔歯：齿・牙〕

| | |
|---|---|
| 乳歯 | 乳牙　乳齿 |
| 義歯 | 义牙　义齿 |

「齿」は文章語、「牙」は口頭語で、最近では「牙」が圧倒的に多くなっている。『汉日』で見る限り、「齿」のつく語は35語採録されているのに対して、「牙」のつく語は410語に及んでいる。『中华』でも、「齿」のつく項目見出しは３項目、「牙」のつく語は、38項目である。

もう１組の語群がある。Ｊの「食道」に相当するＣとして「食道」と「食管」の２語がある。

〔食道：食道・食管〕

| | | |
|---|---|---|
| 食道 | 食道 | 食管 |
| 食道がん | 食道癌 | 食管癌 |

『汉日』では「食道」のつく語が12語に対して「食管」のつく語は155語であった。食道に関する病名はほとんど「食管～」である。日常的には「食道癌」が使われ、専門用語として「食管癌」が多く使われるようである(2)。

次に、「整容」について指摘しておく。介護の仕事の１つに、介護される人の身だしなみを整えることがあり、それを「整容」と表現している。和製語である。この語は中国語にもあるが、中国語では「美容整形」の意味で使われている。同形異義語の例である。なお、Ｊの「整容」に相当するＣとしては「梳洗打扮」とされているが、意訳の動詞句である。

以上のような、同形語と異形語が併存する語は、同形の語に意識が及び、それで理解したと早合点しやすく、異形の語が見落とされる危険があるので注意が肝要である。

## ４．日中異形の語

異形の語は、大別して、①Ｊの和語・外来語・混種語などを中国語に置き換えたり、人名を音訳したもの、②漢語で類似の語形になっているもの、に分けられる。

### ４．１　〔Ｊの和語・外来語・混種語に相当するＣ〕

| | |
|---|---|
| 目やに | 眼屎 |
| ナースコール | 护士铃 |
| 副腎皮質ホルモン | 副肾皮质激素 |
| ソフト食 | 软食 |
| ネフローゼ症候群 | 肾病综合征（NS） |

和語の場合は、日本の介護の現場では「目やに＝眼脂」「むくみ＝浮腫」の

ように、それぞれ対応する漢語も使われている場合が多い。口頭語的な和語と文章語的な漢語とが並行して使われていて、用語を学ぶ側には二重の負担になっている。しかも、「目やに」がＪでは「眼脂」、Ｃでは「眼屎」と日中で違う漢語が使われていることもあり、細心の注意力が求められる。

固有名詞では、Ｃでは以下のように音訳されるものがある。

| | |
|---|---|
| メニエール病 | 美尼尔综合征 |
| ダウン症候群 | 唐氏综合症 |

この種の音訳の語の中には､以下のように複数の訳語が存在する例がある。

| | |
|---|---|
| アスペルガー症候群 | 埃斯博格综合症 阿斯伯格综合症 |
| ベーチェット病 | 白塞病　贝赫切特病 贝切特氏病 |

同一病名に表記が複数あるのは、医療上の意思の疎通の際だけでなく、習得や指導の面からも混乱が生じやすい。

## ４．２　日中の漢語の間での異形語

漢語の間での異形語としては、a. 病気名・薬品名などの接尾辞的部分での語形が異なるもの、b. [気管支]と[支气管]のような造語法が違うもの、c. 語句の挿入と脱落があるもの、d. 語の省略の有無によるもの、e. 類義語の使用によるものがある。

### ４．２．a　接尾辞的要素の語形が違うもの

〔障害：障碍〕

| | |
|---|---|
| 睡眠障害 | 睡眠障碍 |
| 精神障害 | 精神障碍 |

Ｊの「障害」は、本来Ｃと同じ「障碍」であったものが、「碍」の文字が常用漢字表に入らなかったため、日本では同音類義の「障害」を使うようになったものである。異形同義語ともいえる語群である。

〔症候群：综合征〕

| | |
|---|---|
| パーキンソン症候群 | 帕金森氏综合征 |
| 老年症候群 | 老年综合征 |

Ｊの「症候群」は、Ｃでは「综合征」と表現される。「综合征」は「综合症」と記される場合もあるようだが[3]、『汉日』『中华』では「综合征」に統一されている。

薬品名を表す用語にも、同形と異形がある。

〔～剤：～药〕

| | |
|---|---|
| 降圧剤 | 降压药 |
| 抗がん剤 | 抗癌药 |

Ｊの「～剤」が、Ｃでは「～药」になる例が多い。一方で以下のように同形語もある。

〔剤＝剂、薬＝药〕

| | |
|---|---|
| 利尿剤 | 利尿剂 |
| 点眼薬 | 点眼药 |

病名を「～病」というか、「～症」というかでも異形の語群が多い。

〔症：病、病：症〕

| | |
|---|---|
| 心臓弁膜症 | 心脏瓣膜病 |
| うつ病 | 抑郁症 |

「症⇒病」の交換と、「病⇒症」の交換の両方があり、語の交換についての一定の法則は見当たらない。

筋肉を表す漢字も、中国では「筋」の文字は使われず、「肌」の文字で表記される。

〔筋：肌〕

| | |
|---|---|
| 心筋梗塞 | 心肌梗塞 |
| 骨格筋 | 骨骼肌 |

「肌」はＪでは「ハダ」と読み、別の語であるから、日本人にとっては注意が必要な語である。なお「骨格」と「骨骼」も異形同義語である。

### 4．2．b　造語法が逆になっている場合

Ｊの「脳塞栓」が、Ｃでは「脑栓塞」になっているような語順の違う語の例である。以下のようなものがある。

| | |
|---|---|
| 老衰 | 衰老 |
| 軽減 | 减轻 |
| 気管支 | 支气管 |
| 末期がん | 癌症末期 |

これらは日中両語のもともとの造語法の違いから生まれた語群で、使われる個々の漢字は同じだから、その違いが見落とされる危険がある。

### 4．2．c　語の挿入と脱落

Ｊ、Ｃのどちらかに接尾辞的要素が挿入されたり、一定の語が脱落したりする語群である。

〔Ｊの語に「功能」「質」「性」などが挿入される〕

| | |
|---|---|
| 言語障害 | 言语功能障碍 |
| 視力障害 | 视力机能障碍 |
| 骨粗鬆症 | 骨质疏松症 |
| 脊椎圧迫骨折 | 脊椎压迫性骨折 |

Ｊの「言語障害」「視力障害」より、Ｃの「言語功能障碍」「視力机能障碍」の方が、丁寧な造語でわかりやすい。「功能」と「机能」も一般の能力では「功能」を使い、人体の働きの能力では「机能」を使うと使い分けて用いられている。

〔Ｊの語の一部がＣで脱落している〕

| | |
|---|---|
| 横行結腸 | 横结肠 |
| 流動食 | 流食 |

Ｊの「横行」「流動」の「行」「動」がＣでは脱落している。

### ４．２．ｄ　省略語と省略以前の語の対応

Ｊでは省略語を使い、Ｃでは省略する前の語を使う例である。

| | |
|---|---|
| 心停止 | 心脏停搏 |
| 個浴 | 个人浴 |
| 炭水化物 | 碳水化合物 |
| 鉄分 | 铁成分 |
| 泌尿器 | 泌尿器官 |
| 健診 | 健康诊断 |
| 洗身 | 洗身体 |

中国語の方が省略が少なく、わかりやすい。特にＪの「個浴」「洗身」などは、日本語としても新しく作られたもので、すぐにはその意味が理解しにくい。省略のし過ぎの例と言えよう。

### ４．２．ｅ　類義語の使用によるもの

以下の表に示すように、ＪとＣでそれぞれ類似の語・文字が使用されるもので、この種の語群は多い。

| | |
|---|---|
| 広汎性発達障害 | 广泛性发育障碍 |
| 前立腺肥大症 | 前列腺肥大症 |
| 増悪 | 恶化 |
| 下痢 | 泻痢 |
| 洗口 | 漱口 |
| 肥満 | 肥胖 |
| 手話 | 手语 |
| 動悸 | 心悸 |
| 徐脈 | 缓脉 |

漢語の一部が日中で異なるもので、それらは類似の漢字が使われている。

そのため、意味は類推しやすい。類推しやすいために却って、語形を正確に記憶しないですませてしまうという危険もある。正確さを求められる記録などのためにも、その違いを明確に理解する必要がある。

## 5．新しい概念の導入のしかた

### 5．1　新しい和製漢語の扱い

介護の世界では、遠藤(2012)でも報告しているように、新しい造語が次々に生まれている。それらを中国語に移す際、適当な中国語と対応させるのが難しい場合、句の形で置き換えられることがある。すなわちＪの語を説明する形でＣがつくられるのである。

| | |
|---|---|
| 下膳 | 收拾餐桌 |
| 整髪 | 整理头发 |
| 整容 | 梳洗打扮 |
| 造設 | 制造设计 |
| 脱力 | 四肢无力 |

Ｃの訳語は動詞句のままのものが多く、形として不安定であるから、いずれ、適切な中国語にとって変わられるものと思われる。もしかしたら、前述の「整容」のように中国語として既に存在するものはさておき、それ以外の和製語の中には、そのまま中国語に取り入れられるものが出てくるかもしれない。

### 5．2　外来語の導入

介護に関する新しい理念や概念が欧米で生まれ、それらが導入される際の用語のあり方である。

| 原語 | 日本語 | 中国語 |
|---|---|---|
| national minimum | ナショナルミニマム | 最低生活保障 |
| relocation damage | リロケーションダメジ | 移居精神损害 |
| safety net | セーフティネット | 最低保护网 |
| second opinion | セカンドオピニオン | 第二意见 |

Ｊ、Ｃとも新しい概念を取り入れて新しい用語ができた例だが、Ｊではそ

のままカタカナ語にされ、Cでは訳されている。カタカナ語は語形が長くなりがちで、原語と発音がずれることが多く、日本語学習者にとっては負担が大きい。また介護の現場の高齢者やその家族にとっても理解が難しくなることが予想される。それに比べて、表意文字を使って元の意味を伝えようとする中国語は、新しい語の概念も伝わりやすい。こうした中国語の導入方法は、日本語にも大いに参考になる。日本でも明治時代には、西洋の知識や概念を積極的に取り入れて翻訳して日本語の語彙を増やしていた。今一度、そうした先人の努力を思い起こすべきではないだろうか。その際、翻訳語として使われる用語と漢字が、明治期のような難解なものにならないように十全の注意が必要であることは言うまでもない。

## ６．まとめ

以上、介護用語の日本語と中国語を比較しながら、その学習上の問題点を考えてみた。同形の語が半数以上を占めている反面、同形であるが同義でない語、類似しているが語順が違う語など、注意を必要とする語群が多いことがわかった。今後は日中英の３語を比較対照できるリスト作りも考えている。介護も国際化が進む中、既存の用語についてはその意味と用法を整理統合し、できるだけ効率の良い交流がなされることが望まれる。また、今後新しく介護用語が作られる際にも、双方の用語を理解し合った上で協議しながら作業が進められることが望ましい。日中両語の介護用語に共通性や統一性の視点が取り入れられるとしたら、将来の介護の交流はよりスムースに効率的に行われることになるだろう。それは双方の介護を学ぶ人にとって福音となるだろう。さまざまな面での国際化が進む中で、同じ漢字を使う両国の介護用語の国際化も視野に入れられて良い。相互の利点の取り入れと相互のわかりやすさを前提とした用語の環境が整うことを切望している。

### 注

(1)『新・介護福祉士養成講座』全14巻　中央法規出版（2009）

『介護福祉士養成テキスト』全17巻　建帛社（2009）

『介護福祉士養成テクストブック』全13巻　ミネルヴァ書房（2009～2013）

(2)2014年10月に、東京大学大学院在学中の中国人留学生の母親（雲南省の病院に勤務している）から得た情報による。

(3)http://wenku.baidu.com/view/ebeda3074a7302768e993921.html?fr=zhidao

(2014.10.13)

## 参照文献

遠藤織枝（2012）「介護現場のことば」『ことば』33　pp.102-120　現代日本語研究会

遠藤織枝（2013）「介護のことばの平易化のために」『ことば』34　pp.73-87　現代日本語研究会

遠藤織枝（2014）「介護用語の平易化のために」『語彙・辞書研究会　第45回研究発表会』pp.17-24　語彙辞書研究会

大河内康憲（1997）「日本語と中国語の同形語」大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』pp.411-447　くろしお出版

三枝令子（2014）「中国語との比較　国際化の観点から（パネルセッション　大介護時代に日本語教育はどう貢献するか―介護用語の平易化の必要性と可能性―）」『2014年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.28-30　日本語教育学会

柴田範子編（2009）『生活支援技術Ⅰ』ミネルヴァ書房

沈国威（2010）「日本の術語、中国の術語―その歴史的歩みと展望―」『日本語学』29-15 pp.36-45　明治書院

## 参照辞書

『三省堂国語辞典』第７版　三省堂(2014)

『日中辞典』小学館(1999)

『南山堂　医学大事典』19版　南山堂(2011)

『看護大事典』第２版　医学書院(2010)

『汉日医学大辞典』人民卫生出版社(1993)

『中华护理学辞典』人民卫生出版社(2011)

（えんどう　おりえ）